

## ビクター J. デノーブル博士の講演から

### メッセージ

タバコをすえば、ニコチンは肺から心臓を経由してわずか4秒で脳に達します。脳に入るとニコチンは脳の働きを変えてしまい、いつしか依存症になるのです。ネズミの実験でどのようにニコチン依存に陥るかをお聞かせします。なぜネズミが？ネズミは人間のように宣伝に踊らされることもないのに、なぜネズミがニコチンを欲しがるのでしょうか。

ニコチンは薬物（麻薬）だからです。

### ビクター・デノーブル

\*\*\*\*\*

### 紹介文章

1980年、ビクター J. デノーブル博士はフィリップモリス社から、ニコチンの生理学的影響の研究とより安全なタバコを作成するために雇用の申し出があった。ところが研究の成果を発表する段になってフィリップモリス社は中止を示唆した。1984年にはフィリップモリス研究所は閉鎖され、デノーブル博士は解雇された。デノーブル氏はタバコ産業において喫煙関連研究の秘密の壁に穴を開けるきっかけとなった人物の一人となった。デノーブル氏は連邦政府のタバコ訴訟で中心的役割を果たした。1994年に上院で、1995年、食品医薬品局(FDA)で、1996年、食品医薬品局タバコ対策会議にて、1997年には副大統領ゴア氏のタバコ訴訟和解委員会でそれぞれ証言をおこなった。今回の講演の中で、ニコチンの本当の恐ろしさと、それを隠そうとするタバコ産業の深部が明らかにされるだろう。

### 過去の主なテレビ出演（米国）

デイトライン

60ミニッツ

ABC, CBS、NBCニュース

プライムタイム

おはようアメリカ

### 講演アウトライン

21年前、私は猿をつかってアルコール依存症の研究をしていました。日本の柳田博士とも共同でしたこともあります。サラという雌ざるにある日タバコを吸わせてみたところ、興味を示し、吸い込んで頬袋に煙をためました。しかし、決して肺には吸い込まなかったのです。動物実験でタバコを吸わせたことがあります。肺にまでタバコの煙をすいこむ動物はいませんでした。人間だけが恐れを知らず肺深く吸ってしまうのです。

1980年にフィリップモリス社から依頼を受け、安全なタバコの研究を始めました。ニコチ

ンをタバコから全て抽出し、代わりに薬物を添加させることによって、依存性はあるが心臓病はおこさないことがわかったのです。この新製品“安全なタバコ”に会社側は当初満足していましたが、5ヶ月後態度を変えこの企画は隠蔽されてしまったのです。理由は安全なタバコの出現は現存のタバコを否定してしまうからです。

その過程で、ネズミにニコチンを与える実験をしました。この実験ははじめてでしたので、実験装置がうまく機能するかどうか確かめるために、先ずヘロインを使って実験したのです。ヘロインを体内に注入しても数日間依存性はありませんでした。約3週間たつと食事はとらずただレバーを叩き続けたのです。ある朝みると、ケージが血で汚れていました。鼻からの出血です。次の1週間で今度は目から出血していたのです。ついに8ヶ月後に死にました。

次にニコチンです。ネズミの血管に直接ニコチンが入るようにしたのです。その時のニコチンの量は人間との比率で小さいタバコを作成し、煙で吸ったと仮定した量を設定しました。レバーを押すとニコチンが血中に入るようになっていました。1本分のタバコを与えると急激なニコチンによる中毒反応を起こしますが、その後2、3日レバーを全く押そうとしません。実験は失敗しました。そこで人間が吸うように1本のタバコを10回ふかすという設定で、ニコチンが注入されるようにしました。するとヘロインと同じように約21日で依存性を示しました。3ヶ月後には1日90本すうという状況になったのです。人間の場合12才ぐらいで少しずつ吸い始めると約6ヶ月で完全な依存症に入ると言われています。軽いタバコを少しずつの方が依存性を誘発することがわかったのです。

最終的にはネズミの脳にニコチンが直接注入されるように機器を改良し、ネズミがニコチンのみを求めつづけることを証明したのです。この実験の報告をみて、PM側の弁護士達は会社に不利になると考え、実験中止を命令し私を解雇したのです。

すべての記録は一時持ち出したのですが、PM社と裏でつながっていた弁護士にだまされ、証拠となる資料を会社に取りられてしまいました。しかし、手許に残った数枚の研究室を示すスライドがFBIの関心をよび、すべての記録を政府は会社から押収してくれたのです。タバコ産業7社の重役はそのことを知らないで国会で証言したのです。その2週間後に私が証人として呼ばれたわけです。このことによって、タバコ産業は事実を隠していたことが露見し、ミシシッピ州をはじめ各州のタバコ和解裁判の重要な証拠となったのです。

アメリカでも喫煙率は平均26%ぐらいですが、15才前後は38%にもなります。しかし、カリフォルニア州やマサセッツ州のように未成年に対する徹底的な喫煙予防教育は効果があり16%までに喫煙率を下げています。その意味で喫煙防止教育は高校生ではなく、小学生から始める必要があるのです。日本で未成年者喫煙禁止法が制定されて100年を迎えたことを伺い、この法律が有効に活用されることを願うものです。肺がんなどの恐怖心をあおる方法ではなく、小学校3、4年生からタバコの実実、本当の性質を丹念に教えていくことが大切だとおもいます。

以上

(翻訳文責：宮崎 恭一)